

第2回姫路市北部農山村地域活性化基本計画策定検討会での意見要旨

項目	内容
重点プロジェクトを抽出するための現況整理について	<ul style="list-style-type: none"> ・重点プロジェクトを検討するにあたって、北部地域で何が起きているかという点について、もう少し説得力のある資料が必要である。例えば夢前町、安富町ともに人口が減少している反面、世帯数は増えており、10年後どのようなことが起こるかおおよそ想定は出来る。 ・農業関係においても、どれだけ担い手が不足しているかなどを少しでも入れておけば、推薦された委員も具体的に取り組むべきことが見えやすい。 ・人口動態などの分析をしっかりと行っていかなければならない。とりわけ農林業センサスでは、従事者の人口が激減していることが分かる。その辺りのデータを整理し、今後実施予定の重点プロジェクト検討会で、傾向を示せるよう準備する必要がある。
重点プロジェクトの選定の考え方について	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての要望に応えることは難しいが、各委員や事務局の意見も踏まえ、施策内容をしっかり精査して重点プロジェクトを選定したい。 ・守っていくべきもの、攻めるべきものの視点で項目を整理してはどうか。 ・「鳥獣害対策」は農家だけの問題ではなく、住民の安心・安全な生活を維持するためにも必要であり、「農林業」、「コミュニティ」の双方の性質を有している。各施策が持つ効果についても、各委員で共有する必要がある。 ・重点プロジェクトの選定にあたっては重要性和緊急性が大事であるが、結果を残していくことも大事である。取り組みやすいものから進めて結果を出し、全体の機運を高めるということも必要ではないか。 ・重点プロジェクトを進めるには、「人」が要となる。人づくりのための第1歩目のステップが、これから立ち上げる重点プロジェクト検討会でもあると考える。 ・行政だけでは、尻すぼみになってしまうので、地域の方々による主体的な取り組みを行政がどのように応援できるかが重要となる。
重点プロジェクト案の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・農家レストランがオープンし、1年間で3万人の利用客があり、合わせて地域住民の考え方が前向きになってきたことを実感している。先日開催したよもぎサミットの反省会でも、地域の盆踊りの復活が提案されるなど、これらの成功事例が住民の自信につながっていくものと思われる。 ・人を呼び込むにあたっては、守るべき活動よりも攻めるべき活動を重点的にすべきである。人が増えて賑やかになることで、ゴミ問題など新たな問題が出てくるかもしれないが、何より地域の人々が元気になる。 ・委員会メンバーらがつながり、ノウハウを集結し、力をあわせれば、もっとできることが増える。 ・「伝統」を「守りたい」また、「将来の為に残したい」といった思い、あるいは北部農山村地域活性化という言葉を踏まえると、農家レストランの取り組みは、まさにモデルケースであると思う。地域雇用の創出や住民との関わり合いが出てくることで、地域活性化につながる。

- ・すぐに出来ることは進めるべきである。夢前川の花街道づくりはそれほど手がかからない。それを維持していくために、地域の自治体あるいは婦人会、老人会を巻き込んで管理する体制を構築すべきである。またそういった計画を、若い人や多様な事業者を含めて話し合う場を設けるべきである。それらの取り組みによって、IターンやUターンも促進される。
- ・地域での取り組みにおいては地域が主体性をもった上で、まずは地域に「取り組めること」を投げかけることが必要である。地域として取り組める施策があつて、それに対して行政が支援する。
- ・施策をテーマに話し合えることのできる拠点づくりが必要である。農林業等、グループごとに関係者が集まり、そこで問題点の洗い出しや重点施策を検討してもらいたい。本委員だけではなかなか話が進まない。
- ・少子高齢化の中、交流人口に関する施策は大事である。一方で交通・買い物難民が増えており、それらの課題解決に向けて取り組みを進めていく。
- ・森林について、台風 8・15 号によって深刻な状況になっており、今後、大きな災害につながらないように山の整備が重要と考える。
- ・山之内を含め、地域の取り組みを知らない住民が多く、先ずは知ってもらう必要がある。
- ・働きたいという人達が気持ち良く仕事ができる環境を整備したい。
- ・外から来られた方にもっと地域のことを知ってもらう活動を進めたい。
- ・5年を目途というプロジェクト期間においては、交流人口／定住人口どちらに重点を置くかで戦略が異なってくる。その辺りは検討していきたい。
- ・山の現状（荒れているなど）を知らない人が多いので、森林まつりなど交流人口を増やす取り組みをしたいが、マンパワーが不足しており、北部地域だけでも山の担当委員が欲しい。
- ・循環型林業推進事業の推進では、木々が高樹齢化しているので、「切って植えて」というサイクルを定着させたい。
- ・山村集落周辺の森林環境整備について、里山整備などを通して、山の奥を中心とした、災害防止への施策が必要である。
- ・5つのプロジェクト、「多角的な「姫そだち」ブランド活用の推進」「食と農の魅力発信による観光客の誘致」「鳥獣被害への対応」「交流人口の増加」「定住環境（受け入れ体制）の充実」が重要であると考えている。
- ・交流人口を増やすことが取り上げられたが、実際はそれなりに出来ている。本当に望むことは、人を呼び込むことよりも「住んでもらうこと」であり、そのために、③核となる担い手の連携強化、③地域が関わる空き家活用の推進が重要と考える。
- ・林田川流域は商工業者も殆どいない状況なので、「③核となる担い手の連携強化」が重要である。
- ・③核となる担い手の連携強化、④林業を担う人材の確保には、対象は異なるが、双方とも若い人材が必ず必要である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・各取り組み、頑張りを共有することは、さらなる大きな力を生み出す上で重要であり、その場として絶えず意見交換ができる交流拠点が必要である。 ・交流人口について、街の中心から人を引っ張り込んでくる仕掛けが必要である。 ・行政機関において各課の共通課題を束ねる窓口と連携が必要である。 ・共通課題を持つ近隣地域と共同した取り組みも行政が中心となって検討すべきである。 ・①特色ある農産物の生産振興について、結果を出せるものとしては酒米の提携、畜産では姫路和牛などがある。 ・特区（どぶろぐ）を進めれば、農業振興、観光振興につながるのではないかと考える。 ・交流を考える上で、鳥獣被害のヒル対策が必要と考える。 ・姫路和牛については、需要に生産が追いついていない現状があり、生産と販売とをセットで考える必要がある。 ・「山を提供する」という視点を持つべきである。 ・ブランド化に留めず、ブランド化とブランドの魅力発進による交流人口の増加という形で、広く捉えたいと思う。 ・森林の要素については、林産資源を生かした地域活性化＝農林業の枠として検討してはどうか。
<p>重点プロジェクトのテーマについて（決定）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の確保（農林業） ・農産物のブランド化 ・人づくり（拠点づくり） ・交流・定住人口の増加に向けた体制づくり <p>の4つのテーマに決定。</p>
<p>プロジェクト検討会への策定検討会メンバーの参加について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本委員メンバーはプロジェクト検討会には入らないのか。 ・策定検討会のメンバーの前では、若手参加者等は発言を遠慮する可能性がある。活発な意見を引き出すためにも、オブザーバーとして調整的な役割を担って欲しい。 ・策定検討会の委員がプロジェクト検討会に入ると、萎縮させてしまう可能性がある。従って、議題に対する意見をコントロールするような役回りを担うべきである。 ・自身は公募委員であり、地域の住民代表として検討会に参加しているため、できればプロジェクト検討会に入らせて頂きたい。 ・策定委員会で各委員の意見は反映できるため、当該委員のプロジェクト検討会への参加は控えてもらい、参加する場合はオブザーバーとする。
<p>プロジェクト検討会メンバーの推薦について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・策定検討会委員は流域での偏りがある。重点プロジェクトのメンバーを決定する際にはその辺りを配慮頂きたい。 ・推薦人数については、特に定めない方が推薦しやすい。 ・推薦頂いた方は、推薦理由も確認したうえで選定したい。
<p>プロジェクト検討会の進め方について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧町の区分ではなく、菅生川、夢前川、林田川で検討すべきである。 ・流域の問題については、プロジェクト検討会での結果も踏まえ、3回目の策定検討会において、効果的な連携内容等について議論したい。

いて	<ul style="list-style-type: none">・会議の場所については、北部地域が良いのではないか。(北部地域での開催は可能。)・市職員の参加について、農政部局だけでなく、関連する課も調整のうえ、参加して頂きたい。
策定検討会の進め方について	<ul style="list-style-type: none">・検討会について、毎回2時間程度では、不十分と考える。時間に余裕を持たせた方が良い。・従来からの資料の事前送付や議論の時間を長めにとることで検討会の更なる効率的効果的な運営に努めたい。